

2007年度第3回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2007年(平成19年)10月3日(水) 15:30～16:50

場所：L-911

出席者：計 84名

欠席者：計 42名

配布資料：

1. 長期計画企画拡大会議構成員及び各検討専門委員会名簿(2007年7月1日現在)
2. 最終報告／国際連携推進企画(Part I)
イエズス会・東アジア4大学(仮称)グローバル・リーダーシップ・プログラム(案)
3. 意見書
4. 各検討専門委員会進捗一覧

議 事

審議に先立ち、事務局より、配布資料の確認を行った。

1. 各検討専門委員会の進捗について

(1) 国際連携推進企画(Part I)

イエズス会・東アジア4大学(仮称)グローバル・リーダーシップ・プログラム(案)

グローブ学術交流担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会委員長)及び吉野国際交流センター長から、標記配布資料に基づき、アカデミック・プラン等検討専門第2委員会最終報告書「国際連携推進企画(Part I) イエズス会・東アジア4大学(仮称)グローバル・リーダーシップ・プログラム(案)」について、計画の趣旨やプログラムの概要等について説明があった。

- 初年度(2008年度)は上智大学で開催し、以降、4大学の輪番となる。なお、各大学の記念行事の年に合わせて開催することも考える。
- 4大学間の連携を密にし、本プログラム以外にも交流を深めていきたい。
- その他のイエズス会大学とも組織的な交流を進めたい。

《質疑応答》

- Q.** 学生留学委員会においても活発な質疑が行われた。中でも、教員の参加についていろいろと意見が出たが、教員が事前準備の段階からどのように参加すると想定しているか。
- A.** ワーキンググループ(WG)を作って具体的なプログラムの検討を進めているが、その中で考えていきたい。また、他の3大学とも、その件について検討を開始したい。
- Q.** 各大学から8名の学生が選ばれるとあるが、8名となった経緯は。また、どのような学生が選ばれるのか。
- A.** 30名程度の規模が、活動するには最大のサイズであろうという考えから、そのような数となった。なお、特定の学部学科に偏らないよう、幅広く参加学生を選考したい。

併せて、意見書提出の方法について説明があった。

* 今回の質疑応答以外に、委員から意見があれば、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、10月19日(金)までに事務局(総務局総務・経営グループ)宛て提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

2. グランド・レイアウトの全体進捗について

検討専門委員会における進捗状況について、各委員会の委員長から報告があった。

(1) アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

池尾学務担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長)から報告があった。なお、本委員会では、主に学部(学士課程)について検討を行っている。

- 学部学科再編
 - これまで、総合人間科学部の開設、比較文化学部から国際教養学部への改組、理工学部の再編を進めてきた。
 - 文学部人間学研究室教員の神学部移籍と新神学部・神学研究科構想について、現在設置認可申請に向けて作業を進めている。
- 全人教育・教養教育
 - 人間学研究室の神学部との統合に伴い、全学共通科目のあり方も合わせて見直す必要があり、全学共通教育委員会引き続き検討していく。
- 語学教育センター構想
 - すでに予備調査会から答申がなされている。諸般の事情からまだ実施に至っていない。
- 個(学生)に対する教育の充実、外国語による専門教育の実現
 - 各学部のカリキュラムの中で、それぞれ実行されている。
- 入試制度・業務体制の改善
 - 2008年度入試から、カトリック高等学校対象特別入試(AO方式)を導入した。
- 学部・大学院合同で検討すべきものは、WGを作って検討を進めている
 - 「学長直属の審議機関」については、「国際化」をテーマとした国際戦略本部構想を検討中である。
 - 新たな教員組織のあり方については、上智における必要性も含め、検討を進めている。

(2) アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

グローブ学術交流担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会委員長)から報告があった。なお、本委員会では、大学院及び研究面に関して検討を行っている。

- Post-Graduate、国際化、研究環境整備の観点から検討を進めているところである。
- 大学院生への支援
 - 例えば、研究スペースの確保といった点について、今後WGを作り、提案を出していきたい。
- 研究所・研究センターの整理統合
 - 中央図書館・総合研究棟内のスペースの見直しを含め、現在進行中である。
- 研究業績主義
 - WGで検討中である。教育と研究のバランスをどのようにするかが重要である。
- 資金調達
 - 外部資金の導入については、今後の大きな課題として位置付けている。
- 外部評価
 - まずは、自己点検・評価とそれに続く認証評価において実施することとしている。

(3) フィジカル・プラン等検討専門第1委員会

山岡学生総務担当副学長(フィジカル・プラン等検討専門第1委員会委員長)から報告があった。

- 運営組織再構築
 - 2005年4月から実施し、すでに終了した。今後は、通常の会議体において、常により良い運営組織のあり方を検討し、必要であれば、見直しや変更を行っていく。
- 学生支援体制の確立 : 現在さまざまな観点から検討中
 - 奨学金 : 経済的支援だけでなく、学業奨励的なものも整備・推進していく
 - 留学への支援 : 一般留学へのサポートを検討する
 - キャリア支援教育: キャリアセンターと共に検討を進めている
- 効率的な会議体・委員会の整備
 - 2006年3月に中間報告を行ったが、さらに踏み込んで整理をする必要もあり、引き続き検討中である。

(4)フィジカル・プラン等検討専門第2委員会

山岡総務担当理事(フィジカル・プラン等検討専門第2委員会委員長)から報告があった。

- 新築・解体：12号館が2006年7月に着工し、2007年8月に竣工。2007年度秋学期から使用している。また、6号館については、2008年度一般入試が終わった後に解体作業を行うことを検討している。
- 女子学生のための学生寮を、学生やご父母の声を聞きながら、新たに検討していきたい。
- キャンパス利用計画：大学設置基準に見合う校地校舎の確保を前提としながら、財政計画と共に検討する。今後、作業部会を立ち上げ、検討を進めたいと考えている。

(5)人事計画等検討専門委員会

青山人事担当理事(人事計画等検討専門委員会委員長)から報告があった。

- 事務運営組織の再構築：2号館建設に絡め、2005年4月から実施した。
- 職員人事制度の再構築：2007年4月から実施した。今後は、改善項目を洗い出し微調整を行っていく。
- 教学面における人事制度は、アカデミック・プランやフィジカル・プランの進捗を見ながら検討を進める予定である。
 - RA、PDの制度を導入した。今後、全学的に広めていきたい。
 - 教員について、研究業績、社会的貢献、学内貢献の観点を含め、待遇の改善を図りたい。意見・要望を取り入れながら考えていきたい。

《会場からの意見等》

- Q. 大学院専任教員の枠や担当コマ数の義務数見直しなど、現実問題として起こっている問題がある。学部を持たない教員の確保や学部－研究科間での人材活用を検討してほしい。
- A. 現在、学院構想を、長期計画と通常の会議体との両面で検討を進めており、解決策の一つとして考えたい。
- Q. 理工学部では、嘱託助手の任期が切れる場合、公募により次の優秀な人材を確保できているが、やはり任期の問題があり、思った以上に戦力ダウンとなっている。その分をRAやPDで穴埋めしていきたいのだが、学院側から早めに提案をしてもらいたい。
- A. 近いうちに理工学部提案する予定である。

(6)財政計画等検討専門委員会

小瀬垣財務担当理事(財政計画等検討専門委員会委員長)から報告があった。

- 収入源の安定的確保
 - 募金室を設置し、創立100周年記念事業募金を実施中である。
 - 事業会社：検討を進めたが未着手の状態。
- 効果的支出の実現
 - キャンペーン活動が必要と考える。
- 財政的基盤強化
 - 資産運用をさらに強化する。
 - PR活動の強化については、関係部局と協議しながら進めたいと考える。

(7)上智短期大学検討専門委員会

高祖短期大学長(上智短期大学検討専門委員会委員長)から報告があった。

短期大学を4年制学部にも再編するという案が過去に作成されたが、その後、教職員の意向を踏まえてさらに検討を重ねた結果、当面は短期大学として内容の充実を図るという方針に切り替えた。

- カリキュラム改革、学生支援、キャンパス改善、社会貢献を柱とする充実策を、2006年に改めて報告した。
- 2006年度に自己点検・評価、2007年度に認証評価を実施した。これらを基に、改めて将来計画を策定する予定である。
- 短期大学でもAO入試を導入した。第1期として、サマースクール方式による入試を実施し、25名が入学手続を行った。
- 秦野市との提携事業協定締結を予定している。これにより、地域貢献、地域連携をさらに深めていく。

(8) 上智社会福祉専門学校検討専門委員会

喜田社会福祉専門学校長(上智社会福祉専門学校検討専門委員会委員長)から報告があった。

- 大学(学部・大学院)との協力による養成機関、専門分野に特化、社会への還元、を基本方針とする。
- 2008年度は、以下のことを計画している。
 - ▶ 介護福祉士の授業時間を改定する。
 - ▶ 総合人間科学部社会福祉学科の一部の科目について、履修した科目の単位認定を行う。
 - ▶ 介護技術講習会を実施する(国家試験の実技試験が免除となる)。
- 上智社会福祉高等教育・研究センター(仮称)の設置を目指す。

(9) 生涯教育検討専門委員会

豊田公開学習センター長(生涯教育検討専門委員会委員長)から報告があった。

- 上智の公開講座は、大学設立の頃から実施されている。昨今、大学開放、大学の社会貢献の観点からその充実が求められている。
- 年間12,000人の受講生がいた頃もあったが、現在は年間5,000人に留まっている。他大学や民間語学学校との競合があり、「上智の目玉は何か」という点を自問している。
- 上智らしさを強調しながら、既設講座の改善を図る。
 - ▶ 大学カリキュラムの社会人への開放をさらに進める。現在、神学部、哲学科、アジア文化研究室に協力を願い、語学科目を社会人に開放しているが、受講生からは好評である。
 - ▶ 語学講座は最大の改善項目であるが、関係部署と協議しながら改善を図っていく。
 - ▶ 大学の社会貢献・地域貢献という点では、地域に上智大学の良いイメージをどのようにアピールしていくかを検討する。
 - ▶ 「地域の中に如何に大学を位置づけられるか」といった観点で補助金が出るという動きもある。

《会場からの意見等》

- Q. 大学院レベルの講座が開講できないか。
- A. 大学院レベルの講座をやりたいという先生方は多い。
また、公開学習センターや入学センターは、大学のPRの意味も含め、新宿通りに面した、外向けのオフィスが必要なのではないかと考えている。
- Q. 最近、公開講座にも履修証明を出してはどうか、という動きがあるが、何か対応を考えているか。
- A. 受講生のメリットは何か、ということも考える必要がある。例えば、早稲田大学では、各講座に単位が設定されていて、一定以上の単位を積み重ねることによって準学友になれる制度がある。

最後に、高祖理事長から、総括として、今後も各検討専門委員会において、第1期の積み残し課題や新たに発生した問題について、引き続き検討を進めてもらいたいとの発言があった。

3. 次回会議について

次回会議は、2007年12月5日(水)午後3時30分より、2-1702室おいて行うこととする。なお、詳細は追って通知する。

以上